

平成30年度 学び舎ひまわり 第3講 開催報告

日時 平成30年10月14日(日) 10:00~16:45

会場 大北町内会館 (ほか)

受講生 33名(地域 22名 区役所 9名 ケアプラザ等 2名)

プログラム内容

様々なジャンルの取組5つを取り上げ、現地見学や当事者による取組の講義を受け、その後グループ別に意見交換をしました。

事例① 日野ヶ丘町内会の取組【現地見学】

紹介者：齋藤幸雄さん、神吉雄三さん



災害時を想定して、防災に関する勉強会やマップ作り、『一時(いちじ)避難場所』の再検討、要援護者支援の仕組みづくりなど、総合的に対策を検討。そこから見えてくる地域の現状を考慮し、日常的な見守りや若い世代の皆さんに向けた仕掛けなど、現在も活動を広げています。

事例① ワークシート(模造紙)



【受講生の気づき】

- 班長の役目を終えても防災の担当が続くことで活動に継続性が生まれる。地道に関係性を作り、時間や手間がかかると敬遠しがちなことも少しずつ進めていく考えに共感できた。
- こまめな防災グッズの斡旋を通して、住民の防災意識をしっかりと高めている。

事例② 日野南地区の取組 紹介者：杉山 静枝 さん



今年度から「世代間交流を進める会」（愛称：日野南カレー屋）と「地域の子どもたちの絆を深める会」（そうだ！何しよう会）をスタートさせました。両会はボランティアが主体で運営されており、それぞれがアイディアを出し合いながら高齢者から子どもたちまで楽しく集える場づくりに取り組んでいます。

事例②
ワークシート（模造紙）



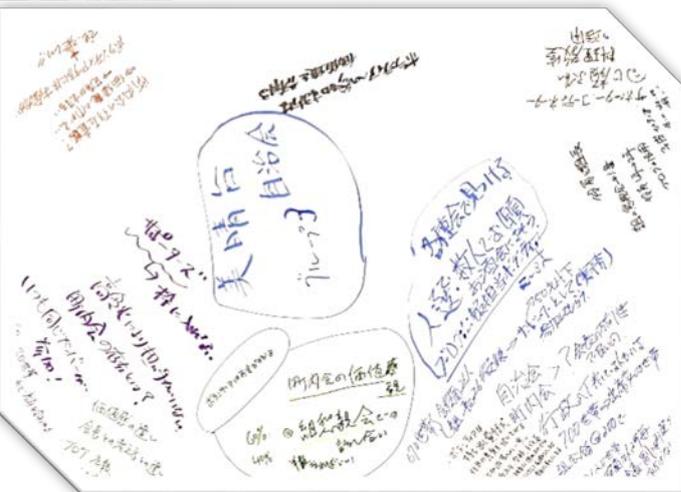
- 【受講生の気づき】
- ・活動中は役員もボランティアも同じ立場のフラットな関係になっている。何かを決める時も、なんとなくみんなが同じ考えを持てるような雰囲気ができている。
 - ・来る者拒まず、参加者を町内会会員に限定していないので、普段は地域活動に参加していない方も来ることができる。

事例③ 美晴台自治会の取組 紹介者：渡邊 正一 さん



まちの活性化には様々な人の協力が必要。自治会役員経験者に美晴台サポーターズに登録してもらい、体制を築いています。様々な団体単位でも活動に参画するなど、たくさんの人が関わる仕組みを作っています。また、住民と自治会執行部との懇談会を行うことでお互いの理解を深め、よりスムーズに活動が進むよう工夫しています。

事例③
ワークシート（模造紙）



- 【受講生の気づき】
- ・全 26 回の懇親会に自治会長がすべてに出ることは、住民の生の声を聴き、自治会からも情報を伝えることにつながる。
 - ・まちをサロン化し、魅力アップさせること、その担い手確保のためのサポーターズ制度は見習いたい。

事例④ 芹が谷台自治会の取組

紹介者：大木 栄 さん



自治会の真ん中にある大きな公園を活かし、ラジオ体操を行っています。健康づくりも目的の1つではありますが、毎朝同じ時間に集まって体操しているので、集まるメンバーのちょっとした変化にも気づきやすく、緩やかな見守り活動としての役割も果たしています。

事例④
ワークシート
(模造紙)



【受講生の気づき】

- 毎日行うラジオ体操を通じて、健康づくりと見守りを一挙に行えている。大きな公園がなくても、近くの学校の校庭などでできればいい。
- 体操の内容にも工夫があり、笑いが絶えない時間帯もある。笑いも健康のひとつで大切であり、笑うことで人の輪が出来ることに注目したい。

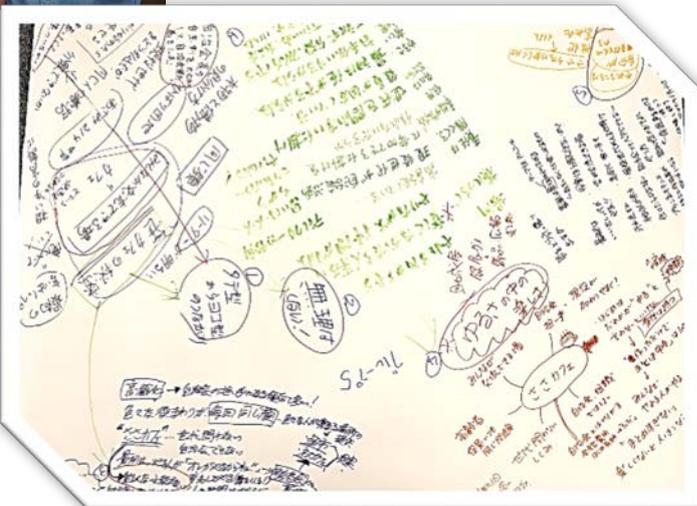
事例⑤ 笹下台団地自治会の取組

紹介者：岡田 正紀 さん



地域の高齢者のためのカフェを開催。参加者に活動の運営に携わってもらうことで参加者を単なるお客さんにせず、お互い見守りあいながら高齢者が中心となってまちを元気にする取組を行っています。カフェには現在子育て世代の参加もあり、0歳から100歳までがつながる多世代交流のきっかけ作りもしています。

事例⑤
ワークシート
(模造紙)



【受講生の気づき】

- 縦型から横型のつながりが大切である。横の関係を大切にし、楽しく活動すると継続性が生まれる。
- 緩やかな中で楽しさを求め、やれることは各自がやれる範囲でやる。参加者の自主性を大切にし、自治会員を巻き込んでいくことが必要。

講師 内海氏からコメント



長年続けている活動については、ずっと同じことを繰り返すのではなく、参加者や時代の流れに合わせて発展し続け、継続していけるよう工夫をされています。また、役割分担をあえて明確にせず、緩やかな仕組みのもと、みんなで盛り上げていく活動や、役員の定着性が低く継続的な活動が出来ない中、丁寧な懇親会の開催をもって相互理解をすすめる活動、どんな人でも気軽に参加でき、楽しめる時間を作る活動には新しさを感じました。

また、住民の皆さんにどんな形で登場してもらうかがどの事例も共通の問題となっています。動員ではなく自主的に動く人材を確保するためには、場合によっては自治会にはとらわれず有志で外に組織を置くことも、比較的やらされ感が少なく有効だと思います。興味のある人、経験者を大切に、そういう方の受け皿を用意しておく、積み重ねて自治会の大きな推進力になると感じました。

学びのまとめ 集計結果

出席 33 名（地域 22 名 職員 11 名） 回答数 31 件 回収率 94%

満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
20	10	1	0	0
65%	32%	3%	0%	0%

受講生の声（抜粋）

- ◎現地見学で、特徴的な地形である日野ヶ丘町内会の中を説明を受けながら実際に歩いたのは、その後の説明がわかりやすくなり良かった。
- ◎5 事例にそれぞれの特徴があり、とても面白かった。その地域にあったやり方で地域の活性化を考えられていると思った。
- ◎自分達でカフェを運営していく、楽しくなければ続かないという話。自分に何ができるかを考えさせられた。
- ◎5 つもの事例をまとめて聞いてとても良かった。
- ◎地域の特性により活動の参加者を増やしていく方法にも違いがある。自分の所では、どのような方法が良いのか、考えていかなければならない。
- ◎紹介された取組の映像などあれば面白いと思った。
- ◎貴重な事例をお聞きできて、参考になった。ただ、もともと持っている自治会の基盤について、知識不足だったのでポイントに合った質問ができなくて残念。

